

授業概要

保育や教育、福祉といった専門職においては「家庭支援」が重要な課題となっている。特に保育士は「家庭支援者」としての高い専門性が求められている。講義ではまず、家族の役割や機能が時代とともに大きく変化していることを学ぶ。そのうえで、現代の家族が直面する諸問題、特に子育てをめぐる困難について、その背景や要因を探っていく。地域と連携した子育て支援の重要性について深く理解するとともに、それらを現場で実践できるような力を養うことを目的とする。

授業計画

第1回	家族って何だろう～家族の定義、家族の見方の再検討
第2回	近代家族の誕生～家族規範の成立と変遷
第3回	企業中心社会と家族～戦後日本の家族のあゆみ
第4回	専門職として「家族」を支えるために～「家族福祉」という観点
第5回	現代の母親をとりまく状況～少子化時代の「孤育て」
第6回	母性神話と三歳児神話～子育て規範の変遷
第7回	育児不安・育児ストレス～育児不安研究から学ぶ
第8回	前半のまとめ
第9回	子ども虐待①～児童虐待防止法について学ぶ
第10回	子ども虐待②～母親支援という観点
第11回	子ども虐待③～ドメスティック・バイオレンスとの関係
第12回	子育て支援の政策動向
第13回	子どもの貧困～社会的支援の必要性
第14回	多様な性を生きる子どもとその家族の支援～ジェンダーの視点から
第15回	家族を支えるさまざまなネットワーク
第16回	定期試験

到達目標

新しい家族への考え方に触れることで、家族についての視野を広げる。
家庭支援の意義と役割について理解する。
家族問題の多様性と個別性を理解し、支援のあり方を自らが検討する。

履修上の注意

ノートは積極的にとることを求める。また授業時に課題を与え、それにこたえてもらう、ミニ・レポートの提出を求めることがある。
遅刻は交通機関等、特別な事情がない限り認めない。

予習復習

予習については、テキストを読んでくるよう指示するので、それを実践すること。
復習については、ノートのまとめ、作業課題など、その都度指示するので、学習に役立てること。

評価方法

定期試験試験（80%）と、授業時に提出を求めるミニ・レポート（20%）で判断する。

テキスト

『実践 家庭支援論【第3版】』松本園子、永田陽子、福川須美、堀口美智子（2017年 ななみ書房）